

2020年5月20日

～第66回 静岡県版 景気ウォッチャー調査(2020年4月)～

## 景況感はリーマン・ショック時を下回る過去最低水準

静岡経済研究所（理事長 一杉逸朗）では、4月下旬～5月上旬に実施した「景気ウォッチャー調査」の結果をとりまとめましたので、ご案内します。

### 現状判断（概要）

- 新型コロナウイルスの影響によるイベントの中止や延期、外出自粛などによる経済活動の急激な萎縮を受け、景況感が急激に悪化。
- 県内景気の「現状判断指数（方向性）」は6.0と、景気の“横ばい”を示す指数「50」を大きく下回るとともに、リーマン・ショック後の2009年1月調査（11.2）をさらに下回り、調査開始（2004年1月）以来、過去最低となった。

### 先行き判断（概要）

- 消費・企業活動の停滞長期化を懸念して、悪化判断が続く見通し。
- 2～3カ月先の景況感を示す「先行き判断指数（方向性）」は19.3と、前回調査（42.2）から△22.9ポイント低下。リーマン・ショック時（23.6）を下回って、調査開始以来、最低となった。

※本件のお問い合わせ先 担当（剣持 瑞恵）

## 景況感はリーマン時を下回り、過去最低水準にまで悪化

2020年4月調査の現状判断指数は6.0と、景気の“横ばい”を示す指数「50」を大きく下回るとともに、リーマン・ショック後の2009年1月調査（11.2）をさらに下回り、調査開始（2004年1月）以来、過去最低となった。新型コロナウイルスの影響によるイベントの中止や延期、外出自粛などによる経済活動の急激な萎縮を受け、前回1月調査（35.5）から△29.5ポイントと大幅に低下し、3カ月の悪化幅も調査開始以来、最大となった（図表1、2）。また、2～3カ月先の景況感を示す先行き判断指数は19.3と、前回調査（42.2）から△22.9ポイント低下。リーマン・ショック時（23.6）を下回って、これも調査開始以来、最低となった。（図表1、4）。

現状判断については、家計消費関連において、緊急事態宣言発令による休業や来客数の減少が響いて大きく落ち込んだ。事業所向けビジネス関連と雇用関連についても、経済活動の急減速に伴う受注量の減少や、企業活動に連動して求人を控える動きがあるなど、すべての分野において、景況感は悪化した。

先行きについては、家計消費関連では、消費マインドの低迷を危惧する声が目立つほか、事業所向けビジネス関連では、新型コロナウイルスの影響が長引くと想定して、悪化判断が続く。雇用関連においても、雇用環境の回復には時間がかかるとみており、厳しい状況が続く。

### < 調査結果の要旨 >

（D.I.は次頁「調査の要領」参照）

#### 現状判断（D.I.=6.0） 新型コロナウイルスの影響により、景況感が急激に悪化

- ・家計消費関連（D.I.=5.9）大型連休を含む長期間の外出自粛が響き、全分野で不調
- ・事業所向けビジネス関連（D.I.=8.3）受注量の減少に伴い、悪化判断
- ・雇用関連（D.I.=0.0）求人数の大幅な減少により、全回答者が悪化判断

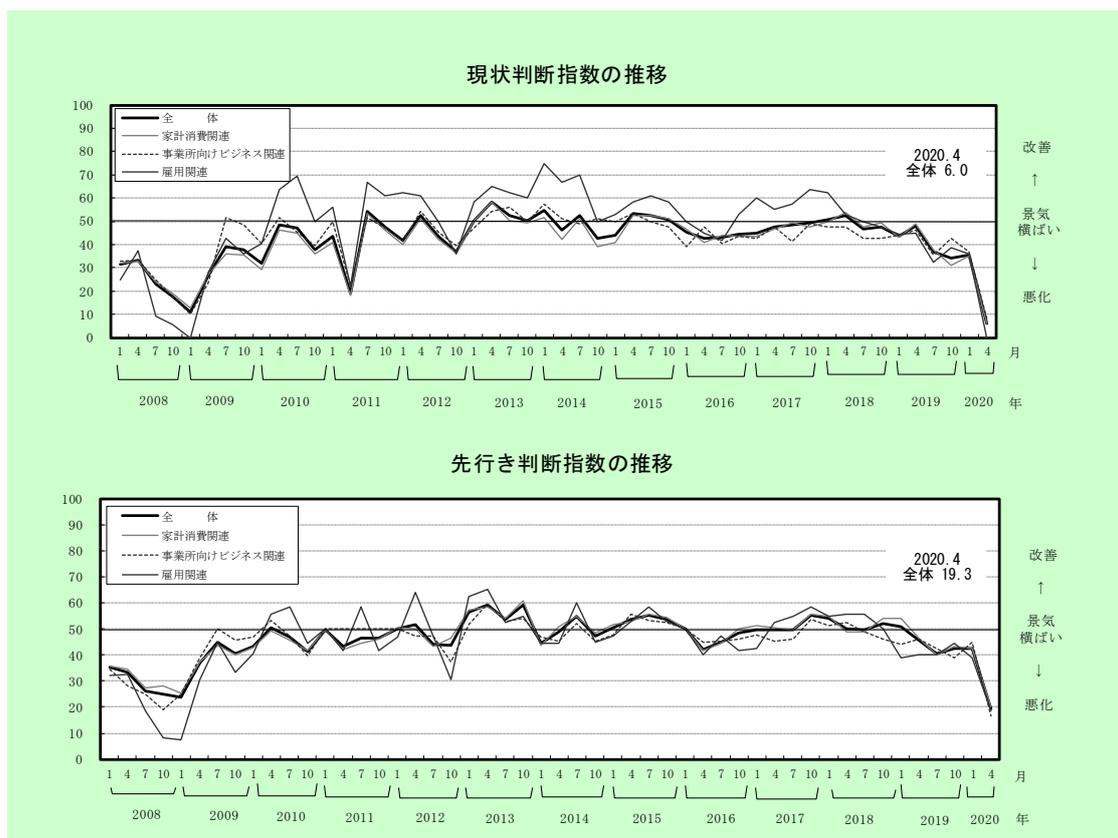
#### <現状判断の理由>

- ・家計消費関連 … 「来客数」の減少により、悪化判断
- ・事業所向けビジネス関連 … 「受注量」の減少や「取引先の様子」から、悪化判断
- ・雇用関連 … 求人を控えるなど「求人の動き」が鈍化

#### 先行き判断（D.I.=19.3）消費・企業活動の停滞長期化を懸念

- ・家計消費関連（D.I.=20.1）消費マインドの回復に悲観的な声が目立つ
- ・事業所向けビジネス関連（D.I.=16.7）新型コロナウイルスの影響が長引くと想定、悪化見通し
- ・雇用関連（D.I.=18.8）雇用環境の回復には時間がかかる見込み

図表1 現状判断指数（D. I.）と先行き判断指数（D. I.）の推移



【D. I.は50が「景気横ばい」、上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示す】

### 調査の要領

- (1) 調査目的：景気に関連した動きを観察できる立場にある人の協力を得て、景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断を調査することを目的にしている。
- (2) 調査対象：経済活動の動向を敏感に反映する事象を観察できる業種から選定した担当者にアンケート調査
  - ・家計消費関連 (n=76)
    - (内訳) 小売関連 (n=32) …… 百貨店、スーパー、乗用車販売など
    - 飲食関連 (n=7) …… 飲食店、外食チェーンなど
    - サービス関連 (n=27) …… 観光ホテル、旅行代理店など
    - 住宅関連 (n=10) …… 不動産販売、住宅販売など
  - ・事業向けビジネス関連 (n=21) …… 印刷、広告代理店、運輸など
  - ・雇用関連 (n=8) …… 人材派遣、職業紹介など
- (3) 調査事項：現在の景気の水準について/景気の現状に対する判断（3カ月前との比較）/その判断理由と、追加説明および具体的状況の説明など（自由回答）/景気の先行きに対する判断（2～3カ月先の予想）
- (4) 調査時点：2020年4月下旬～5月上旬（5月12日回答〆切り）
- (5) 回答状況：調査対象108名のうち、有効回答を寄せていただいた方は105名で、有効回答率は97.2%である。

\* 景気判断指数とは、景気の実況や先行きに対する判断を点数化（下表）し、それらに各判断の構成比（%）を乗じて指数（D. I.）化したものである。これにより、判断指数（方向性）においては、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示すこととなる。

評価	現在の景気 (水準判断)	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い
	現状判断		良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる
先行き判断		良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
点数		+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

## 現状判断 新型コロナウイルスの影響により、景況感が急激に悪化

### 家計消費関連 (D. I. =5.9) 大型連休を含む長期間の外出自粛が響き、全分野で不調

家計消費関連の現状判断指数は5.9と、前回から△29.0ポイント低下し、リーマン・ショック時(12.6)を下回った。内訳をみると、小売関連(9.4)では、「新型コロナウイルスの影響により、イベント中止が相次ぎ、客足が激減している」(スーパー)や、「新型コロナウイルスの影響による商談機会の喪失」(乗用車販売)など、外出自粛の影響から大幅な悪化判断となった。飲食関連(0.0)は、全回答者が「悪くなっている」と判断。「出店している商業施設が休業となり、売上を確保できない」(外食チェーン)など、営業自粛の影響がみられる。サービス関連(0.0)も、「ゴールデンウィーク期間は臨時休園を余儀なくされるなど、新型コロナウイルスの影響は運営に大打撃を与えている」(観光施設)、「お客様が激減し、ゴールデンウィーク中は休館となった」(映画館)など、大型連休中の休業により、きわめて厳しい状況にある。住宅関連(15.0)では、「大手ハウスメーカーの一部では、展示場休業や営業マンの在宅勤務などの動きがあり、契約数は大幅に減少している」(住宅・マンション販売)など、通常の営業活動ができないことによる機会損失の発生を指摘する声が聞かれた。

### 事業所向けビジネス関連 (D. I. =8.3) 受注量の減少に伴い、悪化判断

事業所向けビジネス関連は8.3と、前回から△29.2ポイント低下し、リーマン・ショック時(10.3)を下回った。「イベント等の中止やキャンセルに伴い、印刷物の廃棄処分など余分な経費がかかっている」(広告)といった意見のほか、「取引先のイベントやセミナーが中止あるいは延期になっており、受注機会が減っている」(印刷)など、取引先の動きに伴う受注量の減少が悪化判断につながっている。

### 雇用関連 (D. I. =0.0) 求人数の大幅な減少により、全回答者が悪化判断

雇用関連は0.0と、前回から△36.1ポイント低下し、リーマン・ショック時(0.0)と同値となった。「新型コロナウイルスの影響により、ほぼ全職種において求人ニーズが減少している」(求人情報誌)、「新型コロナウイルスの影響で企業活動が停止している」(人材派遣)など、企業活動の急激な萎縮に伴い、求人数の大幅な減少が指摘されている。

図表2 現状判断指数D. I. の推移

分野	2018年			2019年			2020年	2020.4月		
	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	今回	前回比
全 体	52.4	47.3	47.8	43.5	48.0	36.9	34.2	35.5	6.0	△ 29.5
家計消費関連	53.8	48.3	49.3	43.2	49.0	37.8	31.3	34.9	5.9	△ 29.0
小売関連	45.8	46.0	48.3	40.8	44.0	37.1	26.8	33.0	9.4	△ 23.6
飲食関連	56.3	53.1	46.9	41.7	46.9	36.1	30.6	30.6	0.0	△ 30.6
サービス関連	58.0	46.9	47.1	44.0	55.0	39.0	35.0	38.5	0.0	△ 38.5
住宅関連	65.0	55.0	60.0	50.0	50.0	38.9	35.0	35.0	15.0	△ 20.0
事業所向けビジネス関連	47.6	42.9	42.5	44.0	46.3	35.7	42.5	37.5	8.3	△ 29.2
雇用関連	52.8	50.0	47.5	44.4	45.0	32.5	38.9	36.1	0.0	△ 36.1

## <現状判断の理由>

### 家計消費関連…「来客数」の減少により、悪化判断

家計消費関連は、“(やや) 悪くなっている”の判断理由として、「来客数の動き」を挙げる声が非常に多く、「新型コロナウイルスの影響により、団体予約がほとんどキャンセルとなり、ビジネス利用も激減している」(ビジネスホテル)、「新規販売会の来客数の減少など、明らかにお客様の動きが悪くなっている」(住宅・マンション販売)などの声が聞かれた。

### 事業所向けビジネス関連…「受注量」の減少や「取引先の様子」から、悪化判断

事業所向けビジネス関連では、“(やや) 悪くなっている”の判断理由として、「新型コロナウイルスの影響により、車両販売および整備入庫が減っている」(運送)など「受注量や販売量の動き」を挙げる声が多く、「新型コロナウイルスの影響で、特に観光業者の取引が減っている」(広告)といった「取引先の様子」を挙げる声もあった。

### 雇用関連…求人を探えるなど「求人の動き」が鈍化

雇用関連では、“(やや) 悪くなっている”の判断理由として、「求人の動き」を挙げる声が多い。「サービス業、製造業が新型コロナウイルスの影響をまともに受けており、雇用調整に入っている」(求人情報誌)や「新型コロナウイルスの影響により、求人がストップ。休業企業が増えている」(人材派遣)などの声が聞かれた。

図表3 景気の現状判断理由

#### <家計消費関連 (n=68) >

景気の判断理由	来客数の動き	販売量の動き	客単価の動き	お客様の様子	競争相手の様子	左記以外
(やや) 良くなっている (n=3)	1	0	1	0	0	1
変わらない (n=2)	0	1	0	1	0	0
(やや) 悪くなっている (n=63)	32	8	1	6	0	16

#### <事業所向けビジネス関連 (n=19) >

景気の判断理由	受注量や販売量の動き	受注価格や販売価格の動き	取引先の様子	競争相手の様子	左記以外
(やや) 良くなっている (n=1)	1	0	0	0	0
変わらない (n=1)	1	0	0	0	0
(やや) 悪くなっている (n=17)	6	0	8	0	3

#### <雇用関連 (n=8) >

景気の判断理由	求人の動き	求職者の動き	就職者の動き	窓口の繁忙度合い	他の人材関連会社等の様子	左記以外
(やや) 良くなっている (n=0)	0	0	0	0	0	0
変わらない (n=0)	0	0	0	0	0	0
(やや) 悪くなっている (n=8)	5	0	0	0	0	3

※nは、回答先数

※判断理由の無回答・複数回答先を除く

## 先行き判断 消費・企業活動の停滞長期化を懸念

### 家計消費関連 (D. I. =20.1) 消費マインドの回復に悲観的な声が目立つ

家計消費関連の先行き判断は20.1と、前回調査 (42.1) から△22.0ポイント低下し、横ばいを示す「50」を5期連続で下回った。内訳をみると、小売関連 (15.6) では、「新型コロナウイルスへの対応が長期化しそう。消費マインドは、なかなか上がりそうにない」(商店街)、「活動の制限が多いと消費にも影響がでる」(文房具販売) など、消費マインドの低迷を危惧する声が目立つ。飲食関連 (17.9) やサービス関連 (19.4) でも、「影響は、夏～秋まで続くと思う。その後も、生活スタイルなどが変化して、消費は伸びないと思う」(割烹)、「再開となっても客数が元に戻るとは思えない」(カルチャーセンター) など、悲観的な見方が大勢を占めた。住宅関連 (37.5) も、「企業業績の落込みにより、消費マインドにブレーキがかかると思われる」(住宅・マンション販売) など、先行きを不安視する声が多い。

### 事業所向けビジネス関連 (D. I. =16.7) 新型コロナウイルスの影響が長引くと想定、悪化見通し

事業所向けビジネス関連は16.7と、前回調査 (43.8) から、△27.1ポイント低下し、引き続き悪化判断となった。「新型コロナウイルスの影響による受注減が引き続き予想される」(印刷)、「この状況が長引くと、廃業に追い込まれる会社が出てきて、ますます景気は悪くなると思う」(社会保険労務士事務所) など、新型コロナウイルスの長期化を懸念する意見が目立った。

### 雇用関連 (D. I. =18.8) 雇用環境の回復には時間がかかる見込み

雇用関連は18.8と、前回調査 (38.9) から△20.1ポイント低下し、横ばいを示す「50」を6期連続で下回った。「半年前、あるいは1年前の雇用環境に戻るには何年かかるかわからない。当面、体力のない企業から廃業、閉鎖すると思われる」(職業紹介)、「新型コロナウイルス終息の目途が立たず、求人回復に時間がかかる」(人材派遣) など、今後の雇用状況に対して、きわめて厳しい見方が多くなっている。

図表4 先行き判断指数D. I. の推移

分野	2018年			2019年			2020年	2020.4月		
	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	今回	前回比
全 体	50.2	49.0	52.2	50.7	45.8	40.6	42.6	42.2	19.3	△ 22.9
家計消費関連	49.0	48.3	54.2	54.1	46.5	40.1	43.4	42.1	20.1	△ 22.0
小売関連	46.7	43.5	50.9	50.0	46.6	41.1	40.2	44.6	15.6	△ 29.0
飲食関連	43.8	50.0	53.1	58.3	46.9	44.4	44.4	36.1	17.9	△ 18.2
サービス関連	48.0	50.0	55.2	55.0	45.0	40.0	47.0	40.4	19.4	△ 21.0
住宅関連	62.5	57.5	62.5	60.0	50.0	33.3	42.5	45.0	37.5	△ 7.5
事業所向けビジネス関連	52.4	48.8	46.3	44.0	46.3	42.5	38.8	43.8	16.7	△ 27.1
雇用関連	55.6	55.6	50.0	38.9	40.0	40.0	44.4	38.9	18.8	△ 20.1

## 総括 景況感は急激に悪化、出口見えぬ厳しい状況続く

今回の景気判断を総括すると、まず現状判断指数は6.0と、前回調査35.5から△29.5ポイント低下し、リーマン・ショック時をしのぐ大幅な悪化判断となった。新型コロナウイルスの影響により、「家計消費関連」では、大型連休を含む長期間の外出自粛やイベント中止のほか、休業要請なども相まって、飲食店や観光施設、ホテルや宿泊施設などが大打撃を受け、大きく悪化した。「事業所向けビジネス関連」では、取引先企業の事業停滞から受注量が減少し、「雇用関連」では、企業活動の抑制に伴い、求人数の大幅な減少を指摘する声が多く挙がった。

先行き判断指数は19.3と、前回調査(42.2)から△22.9ポイント低下し、悪化判断が続く。「家計消費関連」では、新型コロナウイルスの影響の長期化を懸念し、消費マインドの回復に悲観的なウォッチャーが多い。「事業所向けビジネス関連」でも、影響が長引くと受注減にとどまらず廃業にまで追い込まれる企業が出てくるとの懸念から、悪化判断となった。「雇用関連」も、新型コロナウイルス終息の目途が立たず、雇用環境の回復には時間がかかるとの見方が多い。

以上、静岡県内のウォッチャーによる景気判断は、新型コロナウイルスによる外出自粛や企業活動の抑制などを背景に急速に悪化している。緊急事態宣言(4月7日発令、16日全国に拡大)以降、私たちを取り巻く環境は一変し、今なお渦中にある。今後については、新型コロナウイルスの終息時期が注目されるが、影響が長期化するとの見方もあり、出口が見えづらいうちで、当面は、きわめて厳しい状況が続くと予想される。

(釘持 瑞恵)

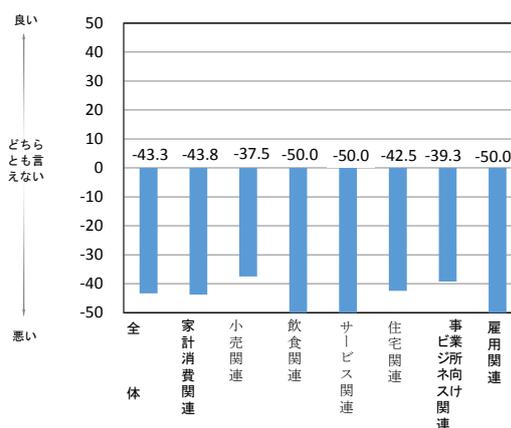
### <参考>

#### 現時点の景気は、すべての分野で“悪い”判断、全体的に低水準

現時点での景気が“良いか悪いか”を聞いた「水準判断」は△43.3と、前回調査(△15.4)を大幅に下回り、△50(全回答者が“悪い”と判断)に近い水準にまで低下した(図表5)。

家計消費関連は△43.8で、とりわけ飲食関連(△50.0)とサービス関連(△50.0)では、全回答者が“悪い”と判断。事業所向けビジネス関連も△39.3と“悪い”という判断が続き、雇用関連も△50.0と最低水準となり、きわめて厳しい判断となった。

図表5 現時点での「水準判断」



※ 現在の景気に対する判断を点数化して各判断の構成比を乗じた上で、「どちらとも言えない」をゼロとして数値化したもの。プラスであれば景気が「良い」、マイナスであれば景気が「悪い」ことを示す。